

ベストペーパー賞・ベストペーパー特別賞・学生奨励賞 選定記

石井信明（第 17 回情報システム学会・研究発表大会 BP 賞選定委員会 委員長）

第 17 回情報システム学会研究発表大会が 2021 年 12 月 11 日（土）に、「日本のデジタル変革のゆくえ -人にやさしい情報システムとそれを支える人材育成-」を大会テーマとして開催され、ベストペーパー賞・ベストペーパー特別賞・学生奨励賞の 3 賞が選定されました。なお今大会は、2 年ぶりに対面での開催となりました。

【おめでとう！ 受賞者の皆様】

- ・ ベストペーパー賞

山田耕嗣、細川敦稀、平野景士朗、高橋 徹（大阪産業大学）、糟谷咲子（岐阜聖徳学園短期大学）：保護者が主導した幼稚園イベント情報システムの構築及び運用

- ・ ベストペーパー特別賞

原 清己（イノベーション・エッジ）：情報システム構築のための人材育成を目指して

- ・ 学生奨励賞

福井佑希（文教大学大学院情報学研究科）：インタラクティブデバイスの機能類似度に基づくリンク予測を用いたアプリケーション開発支援手法の検討

【各賞選定のプロセス】

各賞は、次の手順にて選考に至りました。基本的に一昨年と同様の手順です。

手順 1（BP 賞選定委員の選出）：今大会では、実行委員会により 8 名の委員が選出された。

手順 2（論文内容確認）：各委員は、期限までに投稿された論文をダウンロードして内容を確認する。

手順 3（予備評価）：各委員は、合計の持ち点 100 点で各論文の予備評価を行う。

手順 4（各賞選定）：各委員は、予備評価、および大会での発表と質疑の内容を総合評価し、発表終了後に合議により委員全員が思いを共有して、各賞の該当者を決定する。

以上の手順で選ばれたのが、上記の各賞です。

【各賞の特徴と注目される観点】

ベストペーパー賞では、情報システム論文としての内容、アイデアの新奇性、完成度、情報社会における有用性などが総合的に判断されます。

山田耕嗣さんらの発表は、「これからますます目を向けていかなければいけない分野での継続的な研究として大切な発表であること」、「情報システムの専門家ではない利用者主導による情報システム構築の可能性や問題点が示されており、同様の事例に対する有用な事例研究と言えること」、「今後、産官学（幼保施設・自治体・大学）連携の研究として発展を期待できること」、などが高く評価されました。

ベストペーパー特別賞では、情報システム論文としての内容、アイデアの新奇性、完成度、情報社会における有用性などが総合的に判断されます。

原 清己さんの発表は、「日本の情報システムに関する環境とDXの深刻な遅れが分析され、効果的な打開策が提案されている点」、「今後の情報システム人材の育成にあたり、参考となる分析が示されている点」、などが高く評価されました。

学生奨励賞は、これからの情報システム学会を担う若手研究者の増加を期待して設けられた賞であり、若手学生の該当者として4つの条件が付されています。それらは、研究発表会当日において、「①大学に在籍中の大学生または大学院生であること（ただし、社会人の学生は除く）、②30歳未満であること、③論文の第一著者でかつ発表者であること、④提出期限までに論文を投稿していること」の全てが満たされていることです。

福井佑希さんの発表は、「従来にはないアプリケーション開発におけるデバイス選別手法の1つを提案していること」、「研究の発展が期待できる内容であること」、などが評価されました。

【各賞の選定を終えて】

事前にダウンロードした論文による予備評価では、各委員の意見にはばらつきがあり、各賞の選定には困難が予想されました。大会当日に開催した選定会議では、委員の間で多くの意見が交わされましたが、各賞の選定方針に従い、最終的にまとめることができました。

選定委員は全ての論文を読み、大会当日の発表を視聴した上で情報を交換しました。そして、受賞論文以外の発表にも興味深い話題がたくさんあることを共有しました。ぜひとも、今回発表をされなかった方々を含め、次回大会でのチャレンジをお願いします。さらに、今回発表された方々は、論文の内容をもう一度見直され、情報システム学会誌に投稿されることをお待ちしております。

なお、BP賞の対象は、提出期限までに提出した論文が対象となります。今回、提出期限後に提出された論文にも、授賞の対象としてふさわしいと思われる論文が多数ありました。最後に、この点も申し添えます。

以上